土國建國法 第一

東京圖書館

二冊	九四号	五案	二函	政治屬	治政類

2
94
二ノ五
共九四

仁一
謝十三ノ六
共二本
二本

權中法官井上毅譯并註

王國建國法

明治八年二月刻成

明法寮版

王國建國法小引

一建國法トハ、根本憲法ノ謂ナリ、上君權ヲ定メ、中官制ヲ規シ、下民權ヲ保シ、上下共ニ誓ヒ、守テ渝エズ、之ヲ根本憲法トス、故ニ根本憲法ハ、將ニ國ト共ニ存シ國ト共ニ亡ヒントスル者ナリ、民權ハ何ソ、曰、國民平等、人身自由、住居不侵、私有通義、上言、論述、禮拜社會ノ自由、此ノ類是レナリ、君權ハ何ス、曰、專治ノ國、人主言出テ、法ヲ爲ス、立憲

權中法官井上毅譯并註

王國建國憲

明治八年二月刻成　明法寮版

王國建國法小引

一建國法ト云ハ、根本憲法ノ謂ナリ、上君權ヲ定メ、中官制ヲ規シ、下民權ヲ保シ、上下共ニ誓ヒ、守テ渝ヒズ、之ヲ根本憲法トス、故ニ根本憲法ハ、將ニ國ト共ニ存シ國ト共ニ亡ヒントスル者ナリ、民權ハ何ソ、曰、國民平等、人身自由、住居不侵、私有通義、上言論述、禮拜社會ノ自由、此ノ類是ナリ、君權ハ何ソ、曰、專治ノ國、人主言出テヽ法ヲ爲ス、立憲

ノ國ニ在テハ、國王上下二院ト、立法ノ權ヲ三分シ、諧同ノ後、方ニ定法ヲ成ス、專治ノ國、王事必ス恭ム、立憲ノ國ニ在テハ、獨リ王ノ身位、得テ侵ヌベカラズ、其王命ニ至テハ、輔相名ヲ署シ、事憲法ニ乖ク者アレバ、直ニ人主ヲ責メズメ、罪其輔相ニ加フ、是其異ナリ若夫成法ヲ施行スルノ權、和ヲ約シ戰ヲ宣フルノ權、兵馬ノ權、錢貨ヲ鑄造スルノ權、行政諸官ヲ任スルノ權ハ、

國王ノ專ニスルヲ得ル所ナリ、古ニ云、民ニ二王無シト、猶信ナリ、官制何如、曰、法ヲ議シ稅ヲ徵スルハ、國ノ大事トス、必ス之ヲ衆ニ詢ル、詢フザルノ法ハ、必シモ順ハズ、問ハザルノ稅ハ、必シモ納メズ、是ニ於テ乎、議院ノ設ケアリ、民衆推選ノ、議士集リ、多寡決ヲ擧ケテ、公論定マル、公論ノ歸スル所、以テ法ヲ天下ニ爲ス、若夫議事ハ衆ヲ尚ヒ、施行ハ獨ヲ尚フ、法成テ之ヲ行フ、

政府一ニ統テ縣邑下ニ分ル、各省ノ事ハ、細大トナク、該省大臣、躬ヲ以テ責ニ任ス、綱舉リ目張リ、手動キ臂振フ、冗費無ク滯事無シ、始ハ、三議ノ後ニ決ス、之ヲ愼テ又愼ム已ムヿヲ得ザル者ノ如シ、終リニ、令出テ反スヿ無シ、水ノ下キニ注クカ如シ、乃チ訟獄ノ事ニ至テハ司法ノ官アリ、特立不羈、一官身ヲ終フ、法ニ徇フヿヲ知テ、權ニ順フヿヲ知ラズ、國王ト雖モ臨テ其

決ヲ格ムヿヲ得ズ、而ノ民始テ安スル所ヲ得、是ヲ官制ノ大略トス、立憲各國ノ同スル所ナリ、夫レ開化ノ民ハ法ヲ以テ天下ス、然ニ建國法アラズンバ、民安ノ法ノ以テ重シトスルヿヲ知ラン、柱無キノ家ハ、以テ屋ヲ架スベカラズ、軸無キノ車ハ、以テ輻ヲ施スベカラズ、治國ノ常經、大義數十、炳トノ日星ノ如シ、之ヲ棄テヽ它ニ求メントセバ、猶木ニ緣テ魚ヲ求ムルカ如キ

而已

一原本、佛國ノ法士「ラヘリエル」氏、歐米各國ノ建國法ヲ纂聚ス、譯スルニ佛文ヲ以テスル者ニ係ル、刊行實ニ彼ノ千八百六十九年ニ在リ、今其中ニ就テ、先ッ歐洲各王國ニ屬スル者ヲ拔之ヲ重譯ス、

一法章原文、辭簡ニノ句省ク、加フルニ彼我情事ノ殊ナル、讀ム者、或ハ蠟ヲ嚼ムノ思アリ、乃チ其原由ヲ探テ、其意ノ詼ル所ヲ推スニ至テハ、金石ノ文敲粟ノ義往ヽ一言ニノ萬理ヲ總ル者アリ、今淺學ヲ以テ、妄ニ譯鞮ヲ行ヒ、并セテ小註ヲ加フ、自ラ僭越ノ罪ヲ知ル、博雅ノ君子、垂矚ノ餘、謬誤ヲ批正スルヲ賜ハバ、獨リ譯者ノ至幸ナルノミナラズ

明治八年二月

井上毅　誌

王國建國法第一

普魯西

普魯西ノ舊ヲ捨テ新ニ就クハ、佛蘭西ニ比スレバ、較一歩ヲ遲クシ、其ノ立憲ノ政体ニ赴キシハ、實ニ千八百七年ニ始リテ、又千八百四十八年ノ變亂ノ力ニ倚ル、千八百七年ノ高名ナル公布書、已ニ一切ノ特准ヲ廢シ、國民平等ノ元則ヲ宣告シ、續イテ全國代議士ヲ許セリ、「バロン、ステーン」氏代議士ヲ約許

スル時ニ、衆ニ告テ曰、我カ國ノ祥福ハ、此ノ約ノ實成ノ日ニアルベシ、何トナレバ、國ノ精神醒覺メ、盛大ノ氣力ヲ成スニ至ルベキハ、塗轍ハ、獨リ此アル而已ト、其ノ後、此ノ約虛文ニ付シ、輾轉ノ實施セズ、四十年ヲ經テ、千八百四十八年ノ變亂、全國ノ民選ヲ以テ、立憲會議ヲ興シ、旋アリテ解散スト云ヒ、政府亦已ニ議構セル國憲ヲ批可シ、翌年、上下院ヲ徵聚シ、討論一歲ヲ經、千八百五十年正月三十日ニ至リ、式ニ依リ公布セリ、即チ今

ノ建國法ナリ、

然ルニ、普魯西ノ建國法ハ、政府之ヲ經始シテ、議士之ヲ脩正シ、之ヲ許諾スル者ニシテ、實ニ英吉利ノ純ラ民心ニ興リ、土俗ヲ宜クスルカ如キニ非ス、故ニ人意造作ニ出ルヿヲ免レズ、而シテ欠畧スル所多ク、又民心ニ涵濡スルヿ甚タ淺シ、千八百五十年ノ後、猶ホ前慣ニ因襲シ、両院モ、亦足恭ヲ以テ習トセリ、加フルニ、千八百四十八年ノ人物、政事ノ才ニ乏ク、而シテ又速成ヲ貪リ、竟ニ普魯西

建國法ヲシテ欠陷百出ナルヲ致シ、後日官制權限ノ爭、法ノ缺ニ生スル者、多シ、

但シ國民ニ付スル所ノ私權ニ至テハ、言語、著述、行動、來止、教授、禮拜ノ自由、名實完全シテ、民俗ニ浸潤スルヿ、實ニ歐洲ニ冠首タリ、

以上、「ビレブラン」氏ノ普魯西國制ニ據ル、

千八百五十年一月三十一日公布建國法（原註ニ云、此ノ文ハ千八百五十一年四月三十日千八百五十二年六月五日千八百五十三年四月二十五日五月七日二十四日千八百五十六年四月十四日三十日及千八百五十七年歷次ノ改正ヲ經タル者即チ第四十條第四十一條第四十二條第六十五條第六十六條第六十七條第六十九條第七十六條第九十五條第百零五條及第百十五條ノ第二項是ナリ、）

第一章　國土

第一條

凡ソ我カ王國ノ地土、現今區域ノ中ニ在ル者、普魯西國ヲ成ス、地土ハ成國ノ本實、

第二條

普魯西國ノ疆界ハ、法章ニ由ルニ非レバ、變改スルヿヲ得ズ、疆界ハ一ニ舊貫ニ依リ、變改スルヿヲ得ズ、其ノ已ムヲ得ザル時ハ、必ス議院ノ公議ヲ經テ、始メテ變改スルヿヲ許ス、故ニ國王ハ和戰ノ權ヲ有リテ、割地ノ權ナシ、凡ソ法

章トハ、議院ノ議決ト國王ノ制可ヲ經テ、式ニ依リ頒布スルノ條章ヲ云、是レ君民同議ニ出ル者ニシテ、勢ヒ毎ニ王命ノ上ニ居ル、

第二章　國民諸種權利

第三條

建國法及法章ニ於テ、如何ニシテ普魯西國民タルノ身分ヲ得ル歟、及如何ニシテ政權ヲ得、及之ヲ失フ歟ヲ定ム、民權ニ私權アリ、公權アリ、國民ナル私權ナリ、政權トハ、推選應選ノ權ヲ云、即チ公權ナリ、此ノ章、建國法、民權ヲ定ムルヲ云、其ノ節目ノ如キハ、隨時法章ノ定ムル所タリ、皆ナ國君ノ專命ニ出ルニアラズ

第四條

凡ソ普魯西國民タル者ハ、法章ノ前ニ於テ、平等ト、貴賤ヲ論セズ、法章之ヲ平視スルヲ云、法ハ、門族ニ私セズ、古語ニ、貧富、天神ノ前ニ於テ、平等トス、此レ同一語法、國民ノ間、特准ナル者アルヿ無シ、貴族アリテ、特准アレバ、平等ナラズ、○但シ北日耳曼聯盟ニ於テ許スヿ所ノ旧君族〔古、一ノ國ノ主タル者ノ後〕ハ、兵役及直稅ヲ除クヿヲ得、而シテ訟獄ニ係テハ、獨リ控訴院ニ裁ヲ受ク、○

凡ソ國民、法章ニ定メタル諸種約束ヲ除クノ外、均シク官ニ任スルヲ許ス、年少、罪犯、瘋顛、禁權人ヲ得ズ、是レ法章定ムル所ノ類ハ、官ニ任スルヿヲ得ザル約束ヲ除クノ外、官ニ門地ナシ、是レヲ平等ノ實トス、○特准ナク、官ニ門地ナシ、族ニ獨リ猶太教人ハ、基利督教人ノ誓式ヲ受ルヿヲ能ハザルヲ以テ、法官タルヿヲ許サズ、

第五條

人身ノ自由ハ、保固トス、保固トハ、大法ノ保障スヲ侵ス者、罪アリ、侵サルヽ所ニシテ確固不動之自由ノ道數種アリ、人身ノ抗拒ノ權アルヲ云、勾住ヲ受ケズ、進止擧動、各ヽ自意ニ隨フヲ云、○特ニ拿捕法ニ屬スル者ニ付テハ、法章其ノ何等ノ規程、何等ノ約束、以テ人身自由ヲ制限シ得ベキ歟ヲ定ム、罪犯ヲ糺治スル為ニ、拿捕ヲ行フハ、一時人身自由ヲ制限ス、實ニ已ムヲ得ザルニ出ツ、故ニ法章其ノ規程ト、其ノ約束ヲ設ケ、以テ之ヲ慎重シ、限定アリテ、泛用スルヲ得ザラシム、規程ハ、拿捕措定準アルノ類、約束ハ、發付、拖行、並ニ令狀アリ、拖捕ニ就ク者ハ、必ズ二十四時内ニ訊問一過スル類、○戰守ニ付キ、人身自由ヲ侍ム時ハ、急速議院ヲ聚メ、承諾ヲ取ル、

第六條

住居ハ、侵スベカラザル者トス、人々住ム所ノ家宅ハ、侵スベカラザルノ城郭ニシテ、它ヽ人ニ故無クシテ突入スルヲ得ズ、其ノ官吏ニ在テモ、亦同シ、○住居ニ進入スル事、住居ヲ檢探スル事、及ヒ書簡文書ヲ勾收スル事ハ、法章ノ定メタル時機ニ因ルニ非ズ、及法章ノ定メタル規程ニ循フニ非レバ、行フヲ得ズ、火災、水溢、及家主請求スル者、住居ニ進入スルヲ得、現行罪犯、若クハ糺治ノ處分ニ在テハ、住居ヲ檢探シ、及文書ヲ勾收スルヲ得、是ヲ定メタル規程アリ、○人身自由、住居不侵ノ二ヽ節、治罪法ノ大則タリ、

第七條

何人モ、其ノ正當法司ヨリ、阻隔サル、コトナシ、司法官ハ、民ノ為ニ直ヲ執ル者、是レヲ各人ノ正當法司トス、故ニ訟獄ノ事、必ズ司法官ニ詣リ、裁ヲ受ク、政府官吏、其ノ間ヲ制絶阻障スルコトヲ得ズ、

○非常法衙、特派審吏ノ設ケアルコトヲ得ズ、政府ヨリ、司法官ヲ牽制シテ、行政官吏、若クハ軍士ヲ以テ審吏ニ特派スルコト、往々國事多難ノ日ニ起リ、以テ一切武斷ヲ行フニ便ス、此レ時君ノ專制ニ出ツ、法ノ禁スル所タリ、

第八條

法ニ依ルニ非レバ、糺治ヲ命シ、刑罪ヲ科スルコトヲ得ズ、法章依ルベキノ條ナキ者ハ、情狀アルト云ヒ、糺治セズ、又刑ヲ加ヘズ、

第九條

私有ハ、侵スベカラザル者タリ、田産ヲ云、○全部局部ヲ論セズ、私有ヲ没收スル事ハ、法ニ循ヒ証驗シタル公益ノ故ニ因リ、及其ノ價直ヲ前給シ、若シ緊急ナル時ハ、亦必ズ價直ヲ前定スルニ非レバ、之ヲ行フコトヲ得ズ、營繕ヲ築キ、道路ヲ闢ク為ニ、各民ノ田宅ヲ没入スル類、是ヲ公益没私地ノ法トス、此レ所有之權ヲ制限スル一事ニシテ、其ノ它、没入ノ酷法、一切之ヲ廢ヒ、然リ、公益事件、亦必ス衆ヲ聚メ公議シ、其ノ公益ヲ為ルニ、公益事件ヲ証驗シ、及價直ヲ付スルニ、必ス前給法ヲ用ヒ、其ノ已ムコトヲ得ザルモ、亦必ズ前定スルヲ要ス、

第十條

准死、及財産没收ノ刑ヲ科スルコトヲ得ズ、酷法ヲ廢ス、

第十一條

遷徙一家、若クハ一身、本國ヲ去リ它國ニ之クヲ云、ノ自由ハ、兵役ノ故ニ非ルヨリハ、政府ヨリ、制限スルヿヲ得ズ、兵役ノヿ年ニ居ル者ハ、國ヲ去ルヿヲ得ズ、是ヲ自由ヲ制限スルヿトス、○遷徙ヲ行フ者ニ向テ、稅ヲ徵スルヿヲ得ズ、昔時、人民本國ヲ去ルヿヲ防ク為ニ、遷徙稅アリ是レ人ー身自ー由ヲ害スルノ法トス、今之ヲ廢ス、

第十二條

教旨ノ自由、及教會ヲ聚メ、及公私堂館ニ於テ、禮拜祭儀ヲ公行スルノ權ハ、許ス所トス、○民權政權ノ享有ハ、各民行フ所ノ教旨ニ關カルヿナシ、

新舊教、及猶太教ノ人ヲ論セズ、均ク公私ノ民權ヲ享ルヲ云、○ヒレフランヒ氏曰、普魯西ニ於テ、教旨ノ寛縱ハ、フレデリツクヒ、二世以來、世ノ知ル所タリ、但教旨自由ノ行ヒハ、民事政事ノ義務ニ妨クベカラズ、何教ノ人ヲ論セズ、均ク民法、及ヒ貢稅兵役等ノ義務ニ任スルヲ云、

第十三條

公會ノ權ヲ有セザルノ教會、僧社ハ、法章ノ特條ニ由ルニ非レバ、新ニ之ヲ有スルヿヲ得ズ、私社ハ、自由ニ任ズ、公會ハ、議院ノ議決ヲ待ツ、公會ハ、無形人身ト稱シ、一種ノ權ヲ具フル者、中古、公會横行ノ害アリ、

第十四條

基利督教ハ、教事ニ係リタル國制ノ本礎タリ、但シ第十二條ニ於テ保シタル自由ノ權ニ逃ルヽヿナシ、耶蘇教ヲ以テ国教トスト云ヒ、各一民私ニ它ノ教ヲ行フヿヲ妨ケ爰、

第十五條

新教、舊教、及ビソ它ノ教社、並ニ各箇不羈、自ラ統ヘ自ラ治ム、各〻禮拜教育施濟ノ爲ニ設ケタル土地、銀額、舘舎ノ掌管、及享用ノ權ヲ有ス、隨意自治、互ニ相拘束セズ、

第十六條

諸教社ノ其ノ首長ニ於ケル交際ハ、之ヲ阻障セズ、舊教ノ羅馬法王ニ於ルガ如シ、教書ノ公布ハ、它ノ尋常ノ公布ト同一ノ法ニ從フ、公布自由ナルヲ云、

第十七條

政府、教會ヲ管護スルノ權、及爲ニ設クル所ノ約束ハ、別法ニ由テ之ヲ定ム、王家、教會ヲ統管シ、教僧ヲ叙任ス、名ケテ管護之權トナス、是レ中古ノ遺弊ナリ、今〻法章其ノ約束ヲ定メ、以テ教門ノ不羈ヲ保ス、約束トハ、此レアリ僅ニ彼レアルヿヲ得、制限アルノ謂ナリ、別法トハ、建國法ノ外、別行ノ法章ナリ、

第十八條

僧官ノ叙任薦名撰舉批可ノ權、其ノ管護及它ノ名義ニ因テ、政府ニ屬スル者ハ、之ヲ廢ス、

此ノ條、軍隊及諸公院（病院貧院ノ類）僧官ノ叙任ニ準用セズ、仍ホ政府ヨリ叙任スルナリ、○此ノ條、及上條ハ、教門ノ不羈ヲ保ス、乃チ所謂政教ノ分判ニシテ、普魯西ノ元則一大目タリ、

第十九條

民婚ノ法制、民籍ノ記策ハ、別法之ヲ定ム可シ、民婚トハ、民法ニ從ヒ婚ヲ約ス、民籍ハ官ニ告ルノ類是レナリ、婚姻民籍、中古、皆僧門ニ歸セリ、今法章之ヲ定ム、可シト云者ハ、後ヲ待テ行ハントスルノ辭、ロレブランシ氏ニ據ルニ、此ノ條ノ所謂別法、上院諧同セザルヲ以テノ故ニ、今ニ至テ、未タ定マラズ、

第二十條

學科、及學科ノ教授ハ、自由タリ、禁令アルヲナシ、學科トハ、百科ノ學藝ヲ云、

第二十一條

公立小學校ハ、少年教育ノ任ニ居ルベシ、父母及後見人タル者ハ、其ノ子及未丁一人ノ為メ、小學校ニ掲ケタル教育ヲ欠カシムルヿヲ得ズ、罰スルニ贖金ヲ以テス、○私家ニ在テ、師ヲ延キ教ヲ受クルヿヲ得、故ニ小學校ニ掲ケタル教育ヲ欠カズト云、○普魯社ノ教育ノ勸ムルハ、已ニ千七百紀ヨリス、蓋シ一旦ニアラズ、

第二十二條

學塾ノ建立シ、教授スルノ權ハ、自由タリ、但シ部官（文部官吏ヲ云、）ノ前ニ於テ、其ノ制行學術ヲ檢証スル

ヲ待ツ、

第二十三條

凡ソ公私學塾、及教育ノ諸館舍ハ、皆政府ヨリ指定シタル部官ノ監督ニ從フ、

小學校ノ教師ハ、國臣タルノ權利及義務ヲ有ス、「ボアソナード」氏曰、此レ蓋シ教僧ノ國臣ニ屬セザルニ對シテ云、

第二十四條

小學校ノ建設ニ付テハ、力ノ所能ク教派ヲ崇存スルヲ要ス、新教舊教ノ兒、各類ヲ分テ便近ノ學校ニ就クヲ得、混雜セシメザルヲ云、

教事ノ訓導ハ、爲ニ設ケタル教社ニ屬スベシ、教門

ニ委ス、

小學校外事ノ管轄ハ本邑ニ屬ス政府ハ邑官ヨリ名ヲ薦ムルノ後其ノ器能任ニ堪ユルヲ承認サレタル者ノ中ヨリ教官ヲ任ス外事ノ管轄ハ、建築費用等ノ事ヲ云教官ヲ任スルハ即チ内事トス

第二十五條

小學校ノ建築修繕ハ、本邑ヨリ供給ス、本邑其ノ資力足ラザルヲ具証スルトキハ、政府ヨリ供給ス、○正キ名義ニ依リ、人民ニ課シ得ベキノ課務ハ、之ヲ存ス、學校費用ニ付キ、賦スルノ所ノ課務ヲ云フ、

教官ハ、其ノ地方ノ資力、及大小ニ從ヒ、定俸ヲ得、政府之ヲ保ス、若シ地方ヨリ給セザレバ、政府賠償ス、小學校ノ教ハ、施濟トス、學生ヨリ、學費ヲ納レザルヲ云、

第二十六條

別法、教學規則ヲ定ム、以上七條學制ヲ定ム

第二十七條

凡ソ普魯西國民タル者ハ、言語、文字、印刻、繪畫ヲ用ヒテ、自由ニ其ノ志意ヲ著スノ權ヲ有ス、監査ノ法、設クルヿヲ得ズ、著書監査ノ法ハ、中古ノ弊政ナリ、其ノ它、凡ソ著刻自由ノ制限ハ、議院ノ議定ニ由ル、非レハ、設クルヿヲ得ズ、政府之ヲ專ニスル、ヿヲ得ズ、○印刻、石刻、書林ヲ開ク為ニ、州長ノ許可ヲ請フヿヲ要シ、及國事ヲ著スノ新聞ハ保証金ヲ豫納スルノ類、之ヲ自由ノ制限トス、

第二十八條

言語、文字、印刻、繪畫ニ因テ犯シタルノ罪ハ、刑法ノ條章ニ循テ處罰ス、誣告讒言ノ律條ニ循フナリ、別ニ條例ナキヲ云、○警官事犯ヲ檢シテ、新聞紙、及冊子ヲ勾收シタルヿハ、必ス二十四時内ニ、法司ニ訴ヘ、裁ヲ經ベシ

第二十九條

凡ソ普魯西國民ハ、官警官ヲ云ノ前許專ニ此ヲ允可ヲ得ル者

ナシト云ヒ、戎器ヲ携フルヿナク、平穏ニ、圍閉ノ所ニ露場ニアラズ集會スルノ權ヲ有ス、是ヲ集會ノ自由トス、戎器ヲ携フル者ハ、禁アリ、○警察官ノ前許ヲ要セズト云ヒ、亦必ス二十四時前ニ報知スルヲ要ス、警士二人、集會ノ所ヲ撿シ、若シ兵器ヲ携ヒ、及暴行ヲ煽スル者ハ、直チニ之ヲ解散セシメテ、日代官ニ報呈ス、○露場ニ會スルニハ、官ノ前許ヲ待ツ者、此ノ自由ノ例ニアラズ、衆ヲ駭ガスヿヲ恐ルヽナリ、國王及兩院ノ傍近若ー干里ハ、露場集會ヲ禁ズ、

第三十條

凡ソ普魯西國民ハ、其ノ旨趣、刑法ニ觸レザルノ會社ヲ結フノ權ヲ有ス、前條ハ、尋常集會ヲ云、本條ハ會社ヲ云、

法章、平治ノ持ツ爲ニ、本條及第二十九條ニ保シタル權利受用ノ規則ヲ定ム、其ノ平治ヲ妨ル者ハ、法章之ヲ制限ス、國政ニ係リタル諸會社ハ議院ノ議定ニ由リ之ヲ制限シ或ハ一時之ヲ禁止スルヿヲ得、處士撰議ヲ廣ルナリ、

第三十一條

公會ヲ許否スルノ約束ハ、法章之ヲ定ム、公會ハ、私會ニ比ブレバ、多少ノ權力アリ、事弊亦多シ、故ニ許否、政府ニ屬ス、

第三十二條

凡ソ普魯西國民ハ、上言ノ權ヲ有ス、凡ソ私事ヲ控告シ公益

ヲ建白スル皆ナ是レナリ、○連衆一名ノ上言書ハ、某縣某社ト稱シ、人名ヲ掲ケヲリルヲ云、官司及公會ヲ除クノ外、之ヲ進ムルヿヲ得ズ、連衆一名ノ上言書ハ無形人身ノ權ヲ有ル者ニ限ル、即チ官司及公會是レナリ、

第三十三條

信書ノ秘密ハ、侵スベカラズ、開拆スルヿヲ得ズ、○戰時ノ爲ニ、及罪犯糺治ノ爲ニ、已ムヲ得ザル制限ハ、法章之ヲ定ムベシ、軍機及捜探ノ爲ニハ、信書ヲ開拆セザルヿヲ得ズ、是レ秘密ノ權ヲ制限ス、

第三十四條

兵役ハ、凡ソ普魯西國民ノ義務タリ、它人ヲ傭填スルヿヲ得ズ、○プレデリック、ヴイレーム三世、千七百九十七年ニ於テ、始メテ人々兵役ノ元則ヲ建テタリ、

○役ノ期限、及規程ハ、法章之ヲ定ム、

第三十五條

兵トハ、凡ソ常備兵鄕兵ノ諸部ヲ包ム、此ノ條ノ所以ハ、常備兵ノカヲ增スカ爲ナリ、○鄕兵ハ常備兵ノ役期ヲ終ヘ、田里ニ散歸シ、仍ホ若干年間、名兵伍ニ在リ、時ヲ以テ檢閱ヲ受ケ、事アレバ役ニ赴ク者、是ナリ、○國王ハ、戰時ニ於テ、法章ニ依リ、全國義兵ヲ徵スルヿヲ得、國危キ時ハ、議院ノ議決ヲ經テ、國王ヨリ舉國ノ人丁ヲ起ス、

第三十六條

軍兵ハ、法章ニ定メタル時機ニ於テシ、及其ノ定

メタル規程ニ循ヒ、文官ノ請求ニ因ルヲ除クノ外、内亂ノ制壓ノ爲ニ用ヒラルヽヿナシ、○法章何等ノ時機ニ於テ、請求ヲ行ヒ得ル歟ヲ定ムベシ、軍人内事ニ干預スルハ、禍亂ヲ滋スノ道ナリ、文武関接ノ間、法ノ慎ム所タリ、

第三十七條

軍法司陸軍裁判ハ、專ラ軍律ノ犯者ヲ處ス、○軍法司ノ構制ハ、法章之ヲ定ム、○軍律ハ、別令之ヲ定ム、法ハ、議院ヨリ出ル者、令ハ、國王ヨリ出ル者、

第三十八條

軍兵ハ、役ノ内外ヲ論セズ、議事スルヿヲ得ズ、命ナキニ、集會スルヿヲ得ズ、○鄉兵、役ニ在ラザルノ時ト云ヒ、軍制、軍役、軍務ヲ議スル爲ニ、集會スルヿヲ禁ズ、軍人、事ヲ滋スヿヲ防クナリ、

第三十九條

第五條、人身自由條第六條、住居不侵條、第二十九條、會集自由條、第三十條、結社自由條、第三十二條、上言自由條、ハ、軍律ノ此レト相離レザル者ヲ除クノ外、軍律、亦以上數條カザル者アリ、軍兵ニ準行セズ、以上六條、兵律大目ト相合シテ、相乖

第四十條

私領地土ヲ割割私領シ、私稅ヲ收ムル者、即チ封建ノ餘風、ハ、之ヲ廢ス、○仍

存スル藩建ノ係屬ハ、（上下ノ係屬）法章ニ由リ、之ヲ解散ス、

第四十一條

第四十條ハ、王家ニ直隷スル者、及本國ノ外ニ在ル者ニ準用セズ、（普魯西國ノ外、獨乙諸部、普魯西ニ係屬スル者、）

第四十二條

已ニ頒布シタル別法ニ從テ廢スル者、左ノ如シ、

第一、地土ヲ掌有スルニ由テ附帶シタル審判ノ權ヲ行ヒ、及讓ルヿ并ニ掌有ノ權ヨリ出タル一切ノ特免及課稅、第二、審判ノ係屬、及保護ノ係屬、

大族、小民ヲ保護ス、（子孫相承ケテ臣隷タリ）及世傳臣隷ノ義、及工業ノ舊習ヨリ來リタル課務、（私稅ヲ云、○審判ノ權及臣隷、工業師弟ノ權、並ニ中古ノ遺弊ナリ、今、共ノ詳ナルヿ、得テ知ルベカラス、）係屬、大族保護ノ權世傳此ノ諸權ヲ廢スルニ因テ、從テ從前此權ノ所有主ニ課シタル諸種ノ役務ヲ除ク、

第三章　普魯西國王

第四十三條

國王ノ身體ハ、侵スベカラザル者トス、（故ニ國王ト云ヒ、罪フ擬セズ、）過ナカリ

第四十四條

國王ノ諸執政ハ、責ニ任スベキ者トス、國王ノ為ニ事ヲ執リ、失錯アル時ハ、其ノ罪ニ當ル、責メ國王ニ及ボサズ、○國王ノ政府ヨリ出ル一切ノ文書ハ、必ス其ノ事ノ任責ニ當ル所ノ一ノ執政、之ニ副署シ、始メテ施行スヘキ力アリ、副署セザレバ、責ニ任スルノ憑由ナシ國王上ニ花押シ、執政其ノ下ニ花押ス、之ヲ副署トス、

第四十五條

行政權ハ、國王一人ニ屬ス、議政、ハ衆ヲ尚ト、行政、ハ獨ヲ尚フ、○國王ハ、諸執政ヲ命シ、及之ヲ免ス、用捨、國王ノ意ニ隨フ、○國王ハ、法章ノ頒布ヲ命シ、而シテ其ノ施行ノ為ニ要用ナル條則ヲ發ス、議院ニ於テ議決スルノ法章、王命ヲ以テ頒布ス、法章ハ、專ラ大則ヲ示ス而已、其ノ實際施行、便宜疏通ノ詳目ハ王命ニ由テ、別ニ令條ヲ發ス、

第四十六條

國王ハ、軍兵ノ元帥ヲ有ス、兵馬ノ權ヲ執ル、

第四十七條

國王ハ、軍兵、及它ノ諸部官ニ於テ、凡テノ官吏ヲ命スルノ權ヲ有ス、但シ法章特ニ定メタル者ハ此ノ例ニアラズ、軍官、法官、政部官等、並ニ國王ヨリ任命ス、其ノ民撰ニ屬スヘキ者ハ、法章之ヲ定ム、邑長ノ類、是レナリ

第四十八條

國王ハ、戰ヲ宣ヘ、和ヲ決シ、外國政府ト諸條約ニ

花押ス、和戰ノ專權ヲ有ス、○商易諸約、及一國若クハ國民ノ負任國債、及賦役ノ類、ヲ起スベキ將來是ニ由テ起ルヲ云、諸約ハ、兩院ノ議同ヲ得、始メテ施行スベキ力アリ、其ノ人民ニ關カル者ハ、必ズ人民ノ議ヲ經、故ニ國王、名ハ和戰ヲ專ニシテ、實ハ往々衆議ヲ須ツ、

第四十九條

國王ハ、恩赦ヲ與ヘ、及刑ヲ減スル減等ヲ云ノ權ヲ有ス、○然レ𪜈執政其ノ官事ヲ以テ罪ヲ得タル者ノ、爲ニハ、其ノ罪ヲ論告シタル議院原告者ヨリ奏具スルニ依ルニ非レバ、此ノ權ヲ施スヿヲ得ズ政官ニ私スルヲ防クナリ、○國王ハ特法ニ依ルニ非ズシテ、

方ニ行ヘル法司ノ追究ヲ停ムルヿヲ得ズ、論決ノ後、赦ヲ與フルヿヲ得、未決ノ前ニ、法ヲ格ムヿヲ得ズ、但議院特ニ議決スル者ハ、例ニアラズ、

第五十條

國王ハ、華章及它ノ號章ヲ與フルノ權ヲ有ス、但シ華章號章ハ、特權特許ヲ附帶セズ、特榮アリテ、特權ナシ、○國王ハ、法ノ條章ニ循テ、錢貨ヲ鑄ルノ權ヲ有ス、法ノ條章ニ循ヒ定量ヲ乱ラズ、

第五十一條

國王ハ、兩院ヲ徵聚ス、及會ヲ閉ルヿヲ決ス、○國王ハ、一時ニ兩院ヲ解散シ、或ハ其ノ一ヲ解散ス

ルヿヲ得、○此ノ時ハ、國王必ス解散ノ日ヨリ六十日ノ内ニ、撰舉人（撰舉人ノ事、後ニ見ユ、）ヲ徵聚シ、而シテ九十日ノ内ニ、議會ヲ徵聚スベシ、

第五十二條

國王ハ、議會ヲ延留スルヿヲ得、○但シ本院ノ承認ナクシテ、延留三十日ヲ越ルヿヲ得ズ、

第五十三條

王位ハ、王族法（別ニ王族ヲ定メタル法章アリ、）ニ循テ、大宗ノ序ニ依リ、（長ヲ以テ宗トシ、父子相繼ク、）次ニ、家近支親入嗣ノ例ニ從ヒ、（子無キトキハ、宗親ノ家ニ近キ者、）入ヲ大統ヲ承ク、男統世繼トス、

第五十四條

國王ハ、全周十八歲ヲ以テ成年トス、（摂政ヲ假ラズ、）○國王ハ、兩院合會ノ前ニ於テ、普魯西國ノ建國法ヲ確守シテ侵サズ、而シテ建國法并ニ其他ノ法章ニ循由シテ政ヲ行フヿノ誓ヲ宣フ、

第五十五條

國王ハ、兩院ノ承認ナクシテ、兼テ外國ノ君主タルヿヲ得ズ、（那破倫一世、已ニ佛蘭西帝タリ、兼テ伊太利王タルカ如シ、）

第五十六條

國王未成年ニ屬シ、若クハ曠（ヒサシク）時故障アリテ、政ヲ

親ラスルヿ能ハザレハ、病アル ヲ云、 最近ナル支親ノ成年ナル者、叔弟姪ノ論セズ、攝政ヲ行フ、此ノ時ハ、其ノ人必ズ急速両院ヲ徵聚シ、両院合會シテ、攝政ヲ設クルノ必要ナルヿヲ宣告セシムベシ、

第五十七條

若シ成年ノ支親アルヿ無ク、及法章ヲ以テ豫定シタル者ナキ時ハ、國相 八省執政ヲ合スルノ名 必ス両院ヲ徵聚シ、両院合會シテ、一ノ攝政ヲ撰ハシムベシ、○攝政、職ニ即クニ至ルマデハ、國相、大政ニ任ズ、

第五十八條

攝政ハ、國王ノ名ヲ以テ、王ノ為ニ、代理スルノ意、王權ヲ行フ、○攝政、職ニ即クノ後、其ノ人、両院合會ノ前ニ於テ、普魯西國ノ建國法ヲ確守シテ侵サズ、而シテ建國法并ニ其它ノ法章ニ循由シテ政ヲ行フヿノ誓ヲ宣フ、宣誓未行ハノ間ハ、一切ノ政揆、國相仍ホ之ニ任責ス、

第五十九條

千八百二十年正月十七日ノ法章ニ定メタル、官地及森林ノ稅入ハ、王家ノ内庫ニ屬ス、王家ノ經費ヲ定ム、

○「ヒレブラン」氏ニ據ルニ、普魯西ノ初世、宮費定額大約四十万圓、其ノ後「パレデリク」二世、減省ノ三分ノ二トナス、千八百二十年、大約百六十万圓トシ、千八百五十九年、大約二百万圓（三百万タールトス、○「ストランツ」氏ニ據ルニ、其ノ它、王宮、及動産、及宝石ノ世傳ニ由ル者、皆王家ニ歸ス、

第四章　執政

第六十條

諸執政并ニ執政ノ代理タル諸官ハ、両院ニ參入ノ權ヲ有シ、而シテ發議ヲ願フヿアルゴトニ、議院必ズ之ヲ聞クベシ、議院其ノ參入、及發議ヲ拒ムヿヲ得ズ、○各議院ハ、諸執政ノ出頭ヲ請求スルヿヲ得、議會開ク時ハ、諸執政出頭スルヿ常トス、又議院ヨリ特ニ其ノ出頭ヲ求ムルヿヲ得、

諸執政ハ、其ノ議員タル時ヲ除クノ外、公評ノ權ヲ有セズ、（投票、若クハ起坐、若クハ舉手シテ、可否ヲ評スルノ權、今譯ノ公評ノ權トナス、）

第六十條

各議院ハ、諸執政ノ犯建國法、及贓賄、及謀反ノ罪ヲ論告スルヿヲ得、○大法院、其ノ事ヲ裁決スベシ、○別法、此ノ外ニ、諸執政ノ任責事件、及其ノ糺治刑律ヲ定ムベシ、（糺治ノ方法ト、科スベキノ刑律、○「ヒレブラン」氏ニ據ルニ、此ノ條ノ所謂別法諸執政ノ罪件糺治刑律ヲ定ムベシト云者、現ニ猶未定ニ屬シ、建國法ノ元則、未タ適用スルニ至ラズ、是レ立憲政体ノ基礎取要ナル執政ノ任責法、普魯西國ニ行ハルヽヿ、未タ信スベカラザルナリ、然ルニ、此ノ事實ノ際施行セズト云ヒ、亦法ニ條章アルヲ以テ、執政ノ專横

ヲ防制スルニ足ル、

第五章　兩院

第六十二條

立法權ハ、王ト兩院ト共同シテ、之ヲ行フ、王ト兩院ノ諧同ハ、新法ヲ發スルコトニ欠クベカラズトス、議案王ニ出ル者ハ、兩院ノ承認ヲ要シ、其ノ兩院ニ出ル者ハ、王ノ制可ヲ要ス、若シ互ニ異意アル時ハ、以テ法ヲ成スニ足ラズ、國王制可ヲ拒ムニ罷議ト格議トハ、各王國皆ナ同シ、但シ制可ヲ拒ミ、議院更ニ再議シテ、國王制可ヲ得ズト云ヒ、亦法章ヲ成ス、ノ別アリ、此ノ條、即チ罷議法ヲ用フ、格議法ハ議院議決シテ、次定スル時ハ、仍ホ可ヲ得、此ノ條ノ所謂欠クベカラザル者ト異ナリ、

國債、及官地ノ賣易及歳計ヲ云、ノ議草ハ、國計ニ係リタル法章初メニ下院ニ付シ議ヲ取ルベシ、通常事件ハ立法權ニ於テ、國王、及兩院、平等ニ三分ノ勢ヲ有ス、但國計ニ至テハ、下院ハ上院ニ先チ、特ニ重權ヲ握ル、人民ハ、國計ノ本ナリ、○上院ハ、之ヲ駁可否スベシ、議事法駁可否ト條可否トノ別アリ、駁可否シテ共ノ全法ヲ可否スルヲ云、條可否トハ已ニ其ノ大意ヲ論シ、又每條逐論シテ之ヲ脩改スルヲ得ルヲ云、駁可不ハ、脩改ノ權ナシ、故ニ下院ノ條ニ可ニ否スル者ニ議ルヲ一等、

第六十三條

若シ世治ヲ保スル爲ニ、或ハ不意ノ凶災（保卹ヲ要スル者）ノ爲ニ、緊急ノ處置ヲ爲スヲ要シ、而シテ兩院遇、

散シタル時ニ在ル時ハ、執政總員ノ任責ヲ以テ付下シタル令條、國王ノ令條、其ノ建國法ト相反カサル者ハ、法章ノ力ヲ有スルヿヲ得、權リニ、議院ノト同ク視ル、但シ建國法ト相反カザル者ニ限ル、但シ両院ノ次會ニ於テ、其ノ令條ハ、必ス両院ノ議同ヲ取ルベシ、

第六十四條

國王并ニ各院ハ、法ヲ起議スル起草發議スルヲ云ノ權ヲ有ス、其ノ它ハ、起議ノ權ヲ有セズ、諸執政ト云ヒ、其ノ議案ヲ草スル者ハ、又王ノ名ヲ以テ發議ス、可トセザルナリ、両院ノ一、若クハ國王ヨリ、斥ケタル法章案ハ、其同會ニ於テ、再タヒ進ムルヿヲ得ズ、

次會ヲ待ツヿヲ云、再タヒ進メテ再タヒ斥クラルヽ者、例亦之ニ同シ、

第六十五條至第六十八條

（千八百五十八年削ル、代フルニ下文一條ヲ以テス、）上院ハ、王命ニ由テ建立ス、而ノ其ノ王命ハ、両院諧同ヒル法章ニ由ルニ非レハ、脩改スルヿヲ得ズ、両院合同ノ力ニ非レハ、脩改ノ權ヲ有セス、上院建立ノ王命ハ、特ニ重權ヲ有スルナリ、國王命ヲ發シ上院ヲ建立シ、又上院ノ議員ヲ任ス、故ニ上院ハ王ノ輔翼タリ、

上院ハ、國王ヨリ終身ヲ以テ任命シタル議員及世繼ノ議員ヲ以テ構成ス、千八百五十四年十月十二日ノ令ニ據ルニ、上院ノ議員タル者ハ、第一ニ、王族、第二ニ、貴族、第三ニ、王ヨリ命シタル終身議員トス、終身議員ト

ハ、其ノ生涯ヲ期シテ命シタル者、○上院議員ハ、定數ナシ、現ニ議員二百四十三人ヲ得、其ノ中、六ノ撰舉會ヨリ、名ヲ藏ムル者、九ノ百五人、皇子及舊君族及高官ニシテ議列タルノ固有權アル者四十人、其ノ它ハ王ヨリ撰任シタル世繼、若クハ、身ノ議員ナリ、（ヒレブリヲン氏千八百六十七年終ノ著ニ据ル）○上院議員ハ、俸給及償餉ナシ、

第六十九條

下院ハ、民選議員三百五十二人ヲ以テ構成ス、○選區ハ法章之ヲ定ム、代議士ヲ撰フ為ニ地方ヲ區分ス、之ヲ選區ト云、一選區代議士一人、或ハ二人、或ハ三人ヲ撰フ、千八百六十年六月二十七日ノ法定ノ百七十六區ト云、普魯西ハ、○選區ハ、一區地方固有ノ區ヲ云、全國三百二十六區ヲ得、或ハ數區ヲ以テ成ル、

第七十條

九ノ滿周二十四歳以上ノ普魯西國民ハ、其ノ住ム所、及邑會議員ヲ撰フノ權力ヲ有スル所ノ本邑ノ初級撰舉人タリ、撰舉法、分テ二級トス、其ノ一、初級撰舉人ハ、九ノ二十四歳以上ニシテ、民權ヲ享有シ、六月以上本邑ニ住ミ、而シテ養資料ヲ受ケザル者、皆、上級撰舉人ヲ推撰スルニ預カル、一名公撰人是ナリ、其ノ一、上級撰舉人ハ、公撰人ノ推撰ヲ受ケテ國會議士ヲ撰拔スルノ任ニ居ル者是レナリ、平民ヲ初級撰舉人トシ、上級撰舉人ヲ撰ヒ、上級撰舉人ヲシテ、議士ヲ撰ハシム、○邑會撰舉ノ權アル者ハ、一年以上本邑ニ住ミ、家宅、若クハ家業アリテ、稅納ヲ欠カザル者是ナリ、

邑會ニ於テハ、衆邑ニ撰舉ノ權ヲ兼ヌル者ト云

ド、國會公選ニ於テハ、特ニ一邑ニ止マル、邑會ノ例ヲ引テ、衆邑ニ跨リ、彼此ニ投票スルヲ得ズ

第七十一條

民口二百五十ノ爲ニ、一ノ撰舉人ヲ撰フヲ要ス、上級撰舉人ヲ撰フヲ云、○二百五十口ゴトニ、一區ヲ成スニ非ス、卽チ一區ノ出ス所ノ撰舉人ヲシテ、二百五十口ニシテ、一人ヲ得ルノ比例ニ依ラシムルナリ一區ハ撰舉人六人ヲ得ベキノ戸口ヲ要ス、全國大抵七万三千ノ撰舉人ヲ得、(「ストラッツ」氏ニ據ル、)

公撰人卽チ初級撰舉人ハ、其ノ直稅ニ從ヒ、各部稅額均等ナラシメ、分テ三部トナス上級撰舉人ヲ撰フ爲ノ一選區ノ初級撰舉人ヲ分テ、三部トス、各人ノ貧富ニ視ヘ、撰舉ノ權、強弱アラシメント欲スルナリ、

稅額全數ヲ筭スルノ方ハ、先ツ全數ヲ得ザレハ、以テ三部ヲ分ベカラズ

甲 若シ一邑自ラ一選區ヲ成ス時ハ、邑ゴトニ筭ス、此ノ選區ハ、上級撰舉人ヲ撰フ爲ノ選區ニシテ、第六十九條ニ謂フ所ノ選區ニアラズ、

乙 若シ數邑合セテ、一選區ヲ成ス時ハ、區ゴトニ筭ス、

第一部ハ、最富ノ民ヲ合セ、稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル、

第二部ハ、次等ノ民ヲ合セ、稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル、

第三部ハ、下等ノ民ヲ合セ、稅額全數三分ノ一ヲ

得ルニ至ル、

毎部各其ノ撰舉人（上級撰舉人）ヲ撰フ、即チ撰舉人全數ノ三分一ヲ撰フ、（故ニ、公撰人ノ上級撰舉人ヲ撰フニ比率シ、各部ヲ以テ撰フハ選區ヲ以テスレハ戸口ニ比率ス、戸口ト稅數トスレハ、稅數ニ比率ス、）互ニ經緯ヲ為ス、

數部合シテ、一ノ選舉會ヲ結フヲ得、但公撰人五百員ヲ踰ユルヲ得ズ、（衆事ヲ滋スヲ恐ルヽナリ、）

第七十二條

毎部ヨリ出ス撰舉人（上級撰舉人）ハ、本選區中貫屬ノ人ニ取ル、分部ニ拘ラズ、（本選區中ノ貫屬ニ在レハ、甲部ヨリ乙部ノ人ヲ撰フモ、亦妨ケナキヲ云、）

第七十二條

代議士ハ、上級撰舉人ヨリ之ヲ撰出ス、（第七十條、第七十一條ハ、初級撰舉人ヨリ、上級撰舉人ヲ撰フヲ云、此ノ條ハ上級撰舉人ヨリ、代議士ヲ撰フヲ云、）

民選施行ニ付キ、它ノ條規、及碓稅屠稅ヲ收ムル府市ニ係ル、ノ條規ハ、麦ト内ノ市稅ヲ收ムル者ハ、般庶ノ府市ナリ、民選法之ヲ定ム、

第七十三條

下院ノ任期ハ、三年ト定ム、

第七十四條

凡ソ普魯西國民滿周三十年ニシテ、國民權ヲ失ハズ、（私權公權ヲ合ヒテ云、）而シテ三年ノ間、軍役ヲ經タル

者（及一年ノ間、普魯西國ニ住ミシ者、）ハ、代議上ノ撰ニ當ルヿヲ得、

第七十五條

任期三年已ニ終ルノ後、新ニ議會ヲ撰フ、解散ノ時亦同シ、（任期未タ終ラズシテ、王命ヲ以テ解散シタル時モ、亦新ニ撰フ、）並ニ、前任ノ議員、再タヒ後任ノ撰ニ當ルヿヲ得、

第七十六條

兩院ハ、上年十一月ノ初メヨリ、次年正月ノ半ニ至ル迄ノ間ニ、國王ヨリ、毎歳徴聚ス、其ノ外ニ、事アリテ、徴聚ヲ要スルニモ、亦同シク國王ヨリス、（戒嚴ヲ布告スルノ類ハ、特ニ徴聚ヲ要ス、）

第七十七條

兩院ノ開閉ハ、國王親ラ宣シ、或ハ特ニ任シタル一ノ執政ニ由テ之ヲ宣スルヿ、兩院合會ニ於テス、（始ヲ開トシ、終ヲ閉トス、）

兩院ノ徴、開、延、閉ハ、皆同時ニ於テス、○若唯、其ノ一院ヲ解散シタル時ハ、（不時解散）它ノ一院ハ、固ヨリ延長シテ、期ニ届ルヿヲ得、

第七十八條

各院ハ、自ラ其ノ議員ノ權任ヲ監査シ、（撰任狀ヲ檢査スル等、）其ノ撰舉ニ係リタル爭訟ヲ決ス、○各院ハ、其

ノ事務ノ規則、及其ノ紀律ヲ定ム、又其ノ議長副議長書記官ヲ撰フ、（各院治）

官吏タル者、両院ニ入ル為ニ議員タル為ニ、職ヲ辭スルヿヲ要セズ、（本官ヲ以テ議員タルヿヲ得、執政ニ至テモ、亦同シ、）

若シ代議士タル者、新タニ行政部ノ一官ヲ受ケ、（一ノ權任アル官ヲ云、）若クハ政府ノ官使ニ入リ、（權任アラザル官ヲ云、）若クハ俸給増加ヲ得テ、它ノ使用ニ轉スル時ハ、（舊ト官吏タリシ者、新タニ俸ヲ増シ它ノ官ニ轉ズ、）院中ノ位ヲ失ヒ、及公評ノ權ヲ失フ、（政府ノ利誘ヲ啖ハレヿヲ恐ルヽナリ）而シテ新撰ニ依ルニ非レハ、代議士ノ任ニ復スルヿヲ得ズ、

何人モ、両院ノ議員ヲ兼メルヿ得ズ、

第七十九條

両院ノ會ハ、公行トス、（衆人公聽ヲ許ス、）

議長、若クハ議員十人ノ請乞ニ依ル時ハ、各院秘會ヲ行フ、（公聽ヲ禁ズ、）其ノ請乞ノ可否ヲ議スルモ、亦秘會ヲ以テス、

第八十條

各院、若シ法ニ定メタル所ノ過半衆出頭セザル時ハ、議決ヲ擧ルヿヲ得ズ、

各院ハ、全勝ヲ以テ議決ヲ擧ク、但民撰法ニ定メ

タル特例ハ、限ニアラズ、議事ノ法ハ、全勝アリ、優勝リ多キヲ得ルヲ云、優勝ハ、全數ノ半ヨリ多キヲ云、民選法ノ特例ト、僅ニ彼レ此レヨリ多ヲ得ザルヲハ、再議ニ、優勝ヲ用フルヲ云、

第八十一條

各院ハ、自ラ國王ニ奏疏スルノ權ヲ有ス、○何人モ、兩院ニ向テ自ラ上言書ヲ付スルヿヲ得ズ、上言書ヲ議院ニ進ムルニハ、唯之ヲ書記局ニ投スルヿヲ得、自ラ會中ニ入テ、本院ニ付スルヿヲ得ズ、以テ喧ヲ避ルナリ、

各院ハ、受取ル所ノ上言書ヲ各執政ニ送付シ、書中載スル所ノ訴ニ付キ、執政ノ辨說ヲ求ムルヿ

ヲ得ノ權、（問難）

第八十二條

各院ハ、事犯ノ追糾ニ付キ、檢察ヲ行フ爲メニ、理事員ヲ命スルノ權ヲ有ス、（檢察ノ權、○但シ兩院ノ追糾ハ、大臣ノ犯罪ニ限ル、）

第八十三條

兩院ノ議員ハ、全國人民ノ名代人トス、○議員ハ、其ノ自由ナル心知ニ從テ公評シ、約束及訓條ニ拘束セラルヽヿナシ、（舊法ニ於テ、各地方ヨリ出代議士ハ、其ノ各地方ノ人民ヨリ委任シタル約束訓代人トシテ、各地方人民ヨリ委任シタル約束訓條ニ拘束シ、自己ノ心ヲ以テ、隨意ニ發議可否ス）

ルヿ能ハズ、今ー者、改メテ、凡ノ議員、全國ノ代人ト
シ、各地方ニ拘ラズ、故ニ隨意ニ發議シ、地方人民
ノ求メニ
拘ラズ、

第八十四條

議員ハ公ー評ノ爲ニ、及院中ニ於テ發議シタル意
見ノ爲ニ、之ヲ審糾スルヿヲ得ズ、但シ院則ニ循
ヒ、院中ノ處分ハ、此ノ例ニアラズ、院則ハ、各院各
治シ、議員ヲ拿
捕審糾スルヿヲ得、

凡ソ議員ハ、開會時限ノ間、本院ノ許可ナクシ
テ、刑法ニ觸レタル事犯ノ爲ニ、之ヲ糾治勾捕ス
ルヿヲ得ズ、但シ本日、或ハ翌日、發見サレタル現

行犯ハ、此ノ例ニアラズ、議員ノ特權、○此ノ法ハ、
各國共ニ英ニ倣ヘルナリ

其ノ負債ノ爲ニ勾留スルニモ、民法ニ、負債ヲ催
亦同ク本院ノ許可ヲ要ス、ス爲ニ勾留ス

本院ノ願アル時ハ、開會時限ノ間、民刑ヲ論セズ、
凡ソ糺治勾留、皆之ヲ解放ス、開會ヨリ前ノ事案
モ亦同シ、ヲ云、開會中現行犯

第八十五條

下院ノ議員ハ、國庫ヨリ、路費留費ヲ受ク是レ償
俸給ニアラズ、故ニ餉ニシテ
僅ニ費ヲ償フノミ

○議員ハ之ヲ辭スルヿヲ

得ズ、富ム者ハ、廉ニ誇テ、貧キ者ハ名ヲ失ハンヿヲ恐ルヽナリ、

第六章　司法權

第八十六條

司法權ハ、不羈ノ諸法衙ニ由リ、普魯西全國、九ツノ大法院、二十二ノ控訴院、四十六ノ裁判所ヲ得、商工裁判、保安裁判、猶其ノ外ニ有リ、國王ノ名ヲ以テ、之ヲ施行ス、諸法衙ハ、法章ヲ除クノ外、它ノ權威ニ從フヿ無シ、政府ニ從屬セス、故ニ不羈トス、

第八十七條

裁判ハ、國王ノ名ヲ以テ宣告シ、及決行ス、中古ハ、藩國之ヲ行フ者アリ、教會之ヲ行フ者アリ、今專ラ國王ノ名ヲ以テスレバ訟獄ノ權ヲ統一スルナリ

諸法官ハ、國王ニ由リ、或ハ國王ノ名ヲ以テ、終身ヲ期シ撰任ス、國王ノ名ヲ以テトハ、司法執政、王ニ代リ撰任スルヲ云、

諸法官ハ、法章ニ定メタル事故ノ爲ニ審判紀律裁判

ヲ云、下等裁判所ノ紀律ハ、控訴院之ヲ掌リ、控訴院ノ紀律ハ、大法院之ヲ掌ル、受ケタルニ由ルヲ除クノ外、官ヲ免シ、及職外官トスルヿヲ得ズ、職外官ハ、職ニ在ラズシテ、仍ホ俸給ノ半ヲ受ク、

審問中職外官ト爲シ、審問中、假ニ共ノ職ヲ停ムルヲ云、及本人願ハザルノ轉所

乙裁判所ヨリ、甲裁判所ニ轉スルヲ云、本人ノ自便ヲ以テ轉所ヲ願ハザル者ハ、其ノ意ニ隨フ、

及老退ヲ命スルハ、老廢ノ故ヲ以テ職ヲ辭スル者ハ仍俸給ノ四分一以上ヲ受ク、其ノ自ラ辭職セザル者ハ、紀律裁判ヲ以テ老退ヲ命ズ

章ニ定メタル事故ノ爲ニシ、法章ノ定メタル規程ニ從ヒ、而シテ審判ニ由ルニ非レハ、之ヲ行フヿヲ得ズ、

但シ事務ノ爲ニ已ムヲ得ザル轉所ハ、出張檢視ノ類、此ノ例ニアラズ、

第八十八條

（千八百五十六年四月三十日ノ法ニ於テ廢ス、）

第八十九條

諸法衙ノ構制ハ、法章之ヲ定ム、

第九十條

法ニ掲ケタル條規ニ從ヒ、能力アリトスル者ニ非レバ、法官ニ任スルヿヲ得ズ、法學三年、試ヲ經ルヿ一年、試ヲ經、更ニ試業代言人タルヿヲ得ズ、試業代言人タルヿ、又一年、大試ヲ經、始メテ法官ニ任スルヿヲ得、但シ商工裁判官、保安裁判官ハ、此ノ例ニアラズ、

第九十一條

商事工事ノ爲ノ裁判所ハ、其ノ要用ナル地方ニ、必ス法章ニ由テ建設スベシ、商事裁判所、工事裁判所ヲ新設スルニ、亦議院ノ決ヲ取ル、

此ノ裁判所ノ構制、及權限、官員ノ撰任、職務ノ權利及期限ハ、法章之ヲ定ム、

第九十二條

全普魯西國ニ、唯一ノ大法院ヲ置ク、大法院、伯耳靈府ニ在リ、長官六人、評事官四十九人、○往時、大法院二アリ、其ノ一、伯耳靈ニ在リ、其ノ一、コロニヤニ在リ、コロニヤニ在ル者ハ、以テ來イ因部諸州、佛蘭西ノ民法ヲ用フルノ地方ヲ待ツ、千八百五十二年、合シテ一トナス、コロニヤ舊法院ノ事務ハ、唯ダ伯耳靈大法院ノ一局、之ヲ處行ス、

第九十三條

民事刑事トナク、法衙ノ訟廷ハ公行トス、衆人公聽ヲ許ス、○內行事件男女ノ訟ノ爲ニハ、公行ヲ停ムルヿヲ得、公聽ヲ許サヾルヿヲ得、廉恥ヲ保スルナリ、

第九十四條

重罪ニ付テ、被告人、有罪ノ判斷ハ、陪審ニ屬ス、但シ議院ノ法章、特例ヲ定ムル者ハ、限ニアラス、逆罪ノ特置法院ニ於テ審判スル者、

陪審ノ制ハ、法章之ヲ定ム、平人十二人ヲ抽撰シ、以テ犯人ノ有罪、若クハ無罪ヲ斷セシム、之、ノ陪審トス、

第九十五條

逆罪、及國ノ內外安寧ヲ害スルノ重罪ニ付テハ、兩院ノ前可ト、事前許可ナリト、事後許可アリヲ以テ、特置法院ヲ命スルヿヲ得、伯耳靈府ノ控訴院ヲ以テ特置法院トシ、一院分テ二部トシ、一部論告シテ、一部審裁ス、

第九十六條

諸法衙ト、政部官（諸務、及地方官ト）ノ權限ハ、法章之ヲ定ム、

諸法衙ト、政部官トノ際ニ起ル所ノ權限ノ爭ヲ決スル爲ニ、一ノ法院ヲ設ク、（權限裁判、是レナリ、カ長官トシ、大法院法官數員、政部官數員ヲ以テ、之ニ充ツ、以テ兩平ヲ持ス、）

第九十七條

文武官吏職權ノ姦弊ヲ以テ、（即チ職務罪ナリ）法衙ニ提喚スルノ約束ハ、法章之ヲ定ム、（法衙ニ於テ職務罪ヲ治ムルハ、各種約束アリ、告訴ノ權目代ニ限リ、其ノ平民ニシテ、私訴スル者ハ、賦稅貨財事件ヲ除クノ外、之ヲ本衙政官ニ訴フベキノ類、是レナリ、此レ、以テ司法官ノ、行政官吏ヲ侵逼シ、及平民、私怨ヲ以テ、公事ヲ支障スルヲ防クナリ、但シ、○然レトモ本屬長官吏ノ私罪ハ、一ニ平民ニ同シ、舊法、法衙ヨリ文官ノ前可ヲ求ムルヲ要セズ、武官吏ヲ提喚スルニ、先ツ其ノ官吏本屬長官ノ承認ヲ要フ、今廢シテ用ヒズ、）

第七章　法官ヲ除ノ外政府官吏（行政官吏ヲ云）

第九十八條

法官ヲ除クノ外、諸官吏ヨリ政府代言人ニ至ル迄ノ（普魯西ニ於テ代言人ハ政府官吏ノ一タリ）特權ハ、法章之ヲ定ム、其ノ法章ハ、官吏政府ノ撰任ニ屬スルヲ制限セズト云ヒ、（上官ハ、國王之ヲ任シ下官ハ、上官之ヲ任ズ、）專横ノ處置ニ逆テ之ヲ保護ス、（普魯西ノ法、長官安ニ所屬官吏ヲ罷免スルヲ得ズ、必ス紀律

裁判ヲ經由ス、紀律裁判ハ、伯耳靈府ニ在リ、裁判官員十一人、其ノ中四人ハ、大法院ノ法官之ニ充ツ、凡ソ官吏不律ノ事アレバ、其ノ本屬長官ヨリ紀律裁判ニ訴ヘ、裁決ヲ得テ始メニ罷免スルヿヲ得、又所屬官吏長官ヨリ出タル不當ノ指揮ヲ奉行セザルヿヲ得ルヿ、法ノ保スル所タリ、此レ它ノ國ノ無キ所タリ、

第八章　會計

第九十九條

國ノ費額及入額ハ、必ス豫メ計算シテ、國計表ニ記載スベシ、來年ノ出入ヲ豫計シテ、表冊トナシ、議院ノ公議ヲ取ル者、之ヲ國計表トス、

國計表ハ、必ス毎年之ヲ定ムベシ、毎年、前年ノ末ニ於テ、政府ヨリ、按ヲ發シ、兩院議定スルヲ法トス、各年ノ出額ヲ量テ、以テ入額ヲ科ス、例ヲ逐ヒ舉行スルヿヲ得ズ、「ロレブラン」氏ニ據ルニ、出入豫計ノ公議ヲ取ルハ、建國法ノ大節目ナリ、然ルニ、此ノ事、普魯西ニ於テ、實際忽畧スル者、多シ、

第百條

國計表ニ記載シ、若クハ別法ニ定メタルニ非ルヨリハ、租稅及貢賦ヲ催スルヿヲ得ズ、

第百一條

租稅ニ付テ、特免アルヿナシ、均賦ノ法、

現存セル凡テノ特免ハ、之ヲ廢スベシ、貴族ノ特免ハ、中古ノ遺弊ナリ、

第百二條

政府官吏、及邑吏ハ、法ニ据ルニ非ズシテ、科費ヲ催スルヿヲ得ズ、官吏、正税ノ外ニ、因縁科取スルヿヲ得ズ、

第百三條

法ニ据ルニ非レハ、國債ヲ起スヿヲ得ズ、國債ハ、國ノ大事、故ニ必ズ公議ヲ待ツ、○其ノ它、凡ソ政府ノ保証ニ係ルモノ、並ニ之ニ同シ、銀行、及諸會社ノ政府ヨリ保証ヲ受ケ、債証及銀幣ヲ發行スルノ類、

第百四條

實費、國計表ヲ踰ル時ハ、両院ノ後認ヲ要ス、事前許可

已ニ得ルニ及バズ、故ニ猶ホ事後承認ヲ要ス、

出納ノ統計ハ、統計院之ヲ檢勘結定ス、政府ノ歳計ヲ檢勘スル為ニ統計院ヲ設ク、一歳ノ出納ヲ録シ、政府ヨリ統計院ニ付シ、統計院檢勘シテ、後ニ議院ニ付シ、監視セシム佛國ノ制ニ倣ヘルナリ、○毎年ノ統計全表ハ、一歳ノ出納ヲ録ルル者、統計院ヨリ國債消却ノ部ニ注明ヲ加ヘ、議院ニ付スベシ、

別法統計院ノ構制及權限ヲ定ム

第四章　邑區州部

第百五條

普魯西國ノ邑區部ノ総代及ヒ政治ハ別法之ヲ

定ム、佛國ノ北部ヲ并スルノ前ニ當テ普魯西全國、計ソ八部二十五州三百三十二區トス、部ニ、部長アリ、一部中ノ豪族材學アル者ニ擇フ、州會ヲ監シ、權限ノ争ヲ決シ、州治ニ逆テ訴フル者ヲ裁判シ、陸軍鎮將ト往復シ、凡ソ一部ノ事ヲ総ヘ、毎年部内ノ事狀ヲ參議院ニ公報ス、部會ハ部中ノ豪族地主及府市ヨリ推撰スル所ノ代議士ニシテ六年一任、三年ゴトニ其ノ半ヲ新撰ス、部中ノ利益ニ就キ法章ノ案ヲ議シ、以テ大議院ニ進ムルニ供ヘ、部中ノ獻言請疏部會ニ進ムル者ヲ議決シ、一部ニ屬スル施濟諸院ヲ管治シ、税額ヲ諸州ニ分賦フ、二年ニ一會ヲ開ク、國王ノ委員王ノ名ヲ以テ徴聚シ、及開閉シ、及議案ヲ付ス、但シ議會ニ列セズ、大抵部長委負ノ事ヲ行フ、議長ハ國王ヨリ命ズ、〇一部分テ二州或ハ三州トス、州ヲ治ムル者ヲ州議官トア、州議官ハ國王撰任ス、分テ數課トス、内務、宗教、學校、直税、官地、官林等是レナリ、各課議ヲ發シ、合負総會ヲ以テ之ヲ決ス、議長ハ其ノ所屬吏負ヲ総ヘ、又議會ニ向テ格議ノ權ヲ有ス、議長及各議ハ毎年州内ヲ巡行シ

テ議決セル條規ノ行否ヲ視ル州長ナク、又州會ナシ、益シ州ハ部及區ノ各歳計ヲ定メ、無形人身ノ權アル者ト同カラズ、〇部分テ區トス、三百三十二區、一區ノ大サ大抵佛國ノ「アロンヂスマン」ニ同ジ、區長ハ區會ヨリ名ヲ薦メテ政府ヨリ任命ス、地方ノ名望往々旧執政ノ類ヲ以テ之ニ任スル者アリ、一區ノ行政官トシテ權任甚タ重シ、區長ヲ輔佐スル者一ヲ書記官トス、國王之ヲ任ズ、一ヲ區撰負トス、區會ヨリ推撰ス、區會ハ區内ノ貴姓、地主即チ部會議士ノ撰舉人タル者、及邑會中ニ推撰ンタル府市ノ代議人、邑長、副邑長ノ中ニ推撰シタル村邑ノ代議人タル者ヲ以テ成ル、或ハ終身任トシ、或ハ六年一任トス、各地同カラズ、區長ハ毎年一次以上必ス區會ヲ徴聚ス、區會ノ權任ハ區長ヲ推薦シ、區會撰負二人ヲ撰舉シ、租税ノ分賦、區費課税ノ議、區統計ノ撿査、區費ニ任スル官吏ノ撰任、國王ニ獻スル意見ノ評議及發行等是レナリ、區會ノ議決ハ州議官ノ許可ヲ經テ區長之ヲ施行ス、〇邑制ハ千八百五十年部州區ト共ニ全國同一ナルベキヿヲ公布シタリ

シニ、實際行ヒ難キヲ以テ、千八百五十三年、其ノ法ヲ廢シ、各地各制、其ノ便宜ニ適セシム、全國ノ邑制、約ソ七類ヲ得、府邑ハ、大抵民撰ノ邑長副邑長ヲ撰ブ、邑長統治シ、邑會之ヲ輔ス、凡ソ邑長副邑長ハ、部長ノ批可ヲ要ス、其ノ可セザル者ハ、別ニ擇ブ、邑長ハ、官ノ俸ヲ受ケ一邑ノ行政權ニ居リ、政府ニ向テハ、政府ノ代人トナル、邑會ノ代人トナリ、邑ノ一切ノ構案ハ、政府ノ起草シ、邑中館宇ヲ監司シ、邑費ヲ支配シ、邑吏ヲ任命スル等ヲ掌ル、邑會議員ハ、六年一任ト、毎二年、其ノ三分ノ二ヲ更撰ス、邑長ハ、其ノ議長タリ、或ハ別ニ議長ヲ推撰ス、邑會ノ權甚タ廣シ、隨意ニ邑計ヲ議定シ、邑稅ヲ收ムルヲ得、但邑地ノ轉賣ニ付テハ、部會ノ批許ヲ要スルヲ、懸カスニ、其ノ地ヲ、村邑ノ東西各地ニ、均一ナラズ、仍ホ中古ノ制ニ至テハ、漸ヲ以テ改メン、蓋シ政ヲ執ルナリ、

凡則

第百六條

法ニ示シタル規式ニ循ヲ公布シタル公布法式ニ依ラサレバ、國民認知スルニ由シナシ、諸法章及王命ハ、人民必由ノ務トナル、國民ハ、法ヲ以テ天トス、

法ニ循ヒ、公布シタル王命ノ法トスベキ乎否ノ檢査ハ、部官ニ屬セズシテ、兩院ニ屬ス王命法章ニ讓ルヿ一等、

第百七條

建國法ハ、議院ノ通法ニ循ヒ、脩正スルヿヲ得、之ヲ

修正スルヿヲ得、之ヲ變改スルヿヲ得ズ、然ルニ修正モ亦必ズ再次公評ヲ要ス、但タ它ノ繁難ヲ容レズ、故ニ通法ニ循ノト云、○佛國ノ若キ那破侖三世ノ時、元老ノ決定書ニ由ラザレバ、建國法ヲ修正スルヿヲ得ズ、

各院必ス全勝ノ要ス、可トスル者、全數ノ大半ヲ得ズ、故ニ全勝ヲ得ズ、而シテ再議ニ至ル者ハ、再議ヲ要ス、少ク既ニ二十一日ノ空間アルヲ要ス、建國法ハ、尤モ慎重ノ加フ、修正スル

第百八條

兩院ノ議員及凡ソ政府ノ官吏ハ、國王ニ向テ忠順ノ誓ヲ宣ヘ、及建國法ヲ中心確守スルヿヲ誓フ、軍兵ハ、建國法ニ誓ヲ宣ヘズ、獨リ王ニ誓ヲ宣フルヲ云、兵ハ、王ニ忠

ナルヿヲ知ル政事何如ト問ハズ、

第百九條

現行ノ租稅ハ、舊ニ依テ收入スベシ、新法ノ催稅ハ、議院ノ議ヲ假ラズ、○ビレブラン氏ニ據ルヨリ、此ノ條、第九十九條ト實ニ相矛盾スル故ニ千八百六十五年ヨリ、千八百六十一年ニ至テ、旧ニ依ル迄、十二年ニ名ヲ以ノ百六十五年間、歲計曾テ前議ヲ經ズシテ發セズ、千八百六十六年ニ至ル迄四年ノ間執政ニ在リシ、其ノ實ハ、千八百四十九年ノ立法ノ缺失ニ起ル、是レ法ノ專裁ヲ存セシ年ノ歲計ヲ議スルヿ、議士亦優容シテ收入スシ、年ヨリ、千八百六十六年ニ至テ、議院ノ爭此レニ由テ、政府ノ專裁ヲ存セシ年ノ歲計ヲ議スルヿ、家兩間ニ居中シテ、而シテ、大ニ起ル、是レ法ノ缺失ニ至レリ、八百六十七年以後始メテ前年ノ末ニ後年ノ歲

此ノ建國法ニ乖カザル所ノ定法書、及各法、及王

命ノ一切ノ條規、其ノ別法ニ由テ之ヲ廢セザル者ハ、之ヲ存シテ舊ニ因ル、

第百十條

舊法ニ由テ建設シタル諸官ハ、官制法公布ノ日ニ至ル迄ハ、施行舊ニ因ル

第百十一條

內外戰亂、世治危險ノ日ニ當テハ、建國法ノ第五條、人身自由條 第六條、住居不侵條 第七條、裁ヲ受ルヿ、必スル相當法司ニ於テノ條 第二十七條、第二十八條、著刻言議自由條 第二十九條、集會結社自由條 第三十條、常備兵內鎭ノ用ヲ為サザル第三十六條

ノ條ハ、機宜處分ヲ要スルノ時間、及其ノ地方ニ在テ、法ノ力ヲ失フベシ、假ニ法ノ力ヲ停ムヿヲ得ザルニ出ルナリ、假則新ニ建國法ヲ定ムヿ、故ニ假則ヲ設ケテ施行ニ便ス、

第百十二條

第二十六條ニ掲ケタル法章教學法公布ノ日ニ至ル迄ハ、現行ノ小學校、及普通學ノ法則ハ、舊ニ因テ施行スベシ、教學新法、今ニ至テ未タ議決セズ、猶ホ旧法ニ因ルト云、

第百十三條

刑法改定ニ至ル迄、筆記印刻繪畫ノ犯罪ニ付、別法ヲ付スベシ、

第百十四條

（千八百五十六年四月十四日ノ法ニ於テ廢ス）

第百十五條

第七十二條ニ掲クタル民撰法ノ公布ニ至ル迄、下院議員ノ撰舉ニ付キ、千八百四十九年三月三十日ノ王命ハ、舊ニ依テ施行ス、

第百十六條

現存スル兩箇ノ大法院ハ、之ヲ一ニ合スベシ、其ノ構制ハ、別法之ヲ定ムベシ、

第百十七條

官吏法ノ中ニ於テ、建國法公布以前施行セル所ノ官吏ノ權利ハ、特ニ之ヲ存スベシ、

第百十八條

若シ日耳曼同盟ニ付キ、千八百四十九年五月二十六日定メタル憲法ノ爲ニ、此ノ建國法ノ改正ヲ要スルヿ、已ムヲ得ザルニ出ル時ハ、國王之ヲ命スベシ、而シテ次會ニ於テ、其ノ旨ヲ兩院ニ通照スベシ、日耳曼同盟ノ憲法ト、此ノ建國法ト相觸レ、改正ヲ要スルヿヲ致ス、

兩院ハ、假ニ命シタル改正ノ、果シテ日耳曼同盟建國法ト諧合スル歟ヲ決スベシ、

第百十九條

第五十四條ニ載セタル、國王、及兩院議員、及政府官吏ノ宣誓ハ、此ノ建國法ノ立法官ニ因テ鈐定シタル即時ニ行フベシ、

王國建國法第一終

書普魯西建國法後

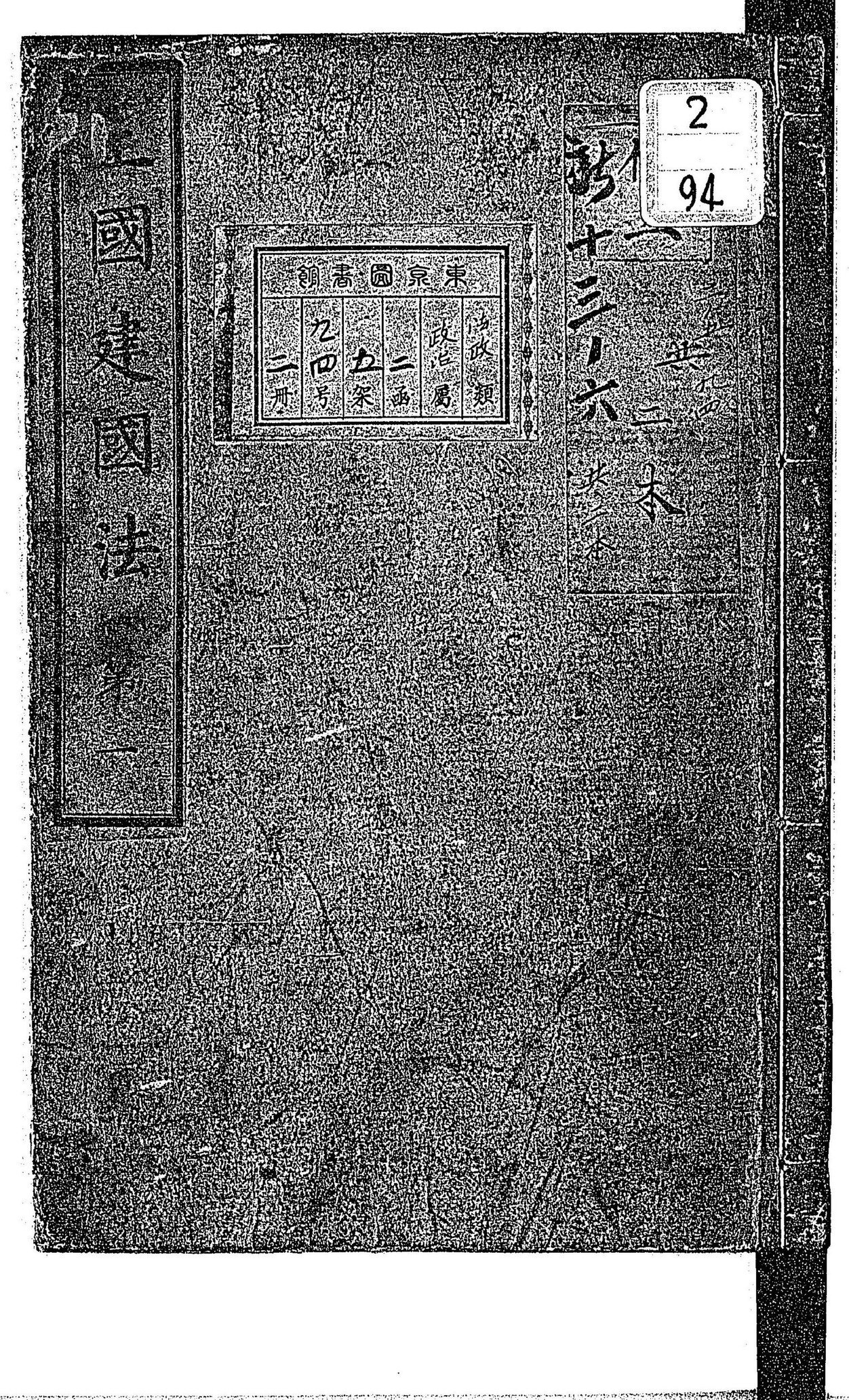
封建ハ、猶天下ト之ヲ公ニスルノ意アリ、猶内外相鈐束シ、以テ均勢ヲ持スルニ足ル、封建廢シテ、而ノ國憲ヲ定メテ、以テ政權ヲ分チ公議ヲ通セズ、是ヲ太偏トス、歐洲中古ノ史、各國王家、藩國ヲ削平シ、強ヲ一時ニ擅ニシテ、而ノ偏重ノ患、激シテ近世ノ變亂ヲ成フ、流血千里、顚覆百年、蓋シ蒼生ノ禍、未タ舊ヲ捨テ

新ニ就クノ際ヨリ慘ナル者アラズ、抑之ヲ救フ亦道アル歟、蓋シ國憲起ル、或ハ下ニ成リ、或ハ上ニ成ル、下ニ成ル者ハ、佛朗西是ナリ、擁シテ之ニ逼ル、輾轉相赴ツノ勢、今ニ至テイマダ已マズ、上ニ成ル者ハ、普魯西是ナリ、批シテ之ヲ可ス、君民諧同、國ニ内警ナシ、二ツノ者ノ間、利害相去ル、果シテ何如ゾ乎、

止

2
94

御用御書物師
東京 日本橋元四日市
林 半兵衛



2
94

031448-001-3

2-94

王国建国法

ラヘリユル／著

上

M8

BBE-0045